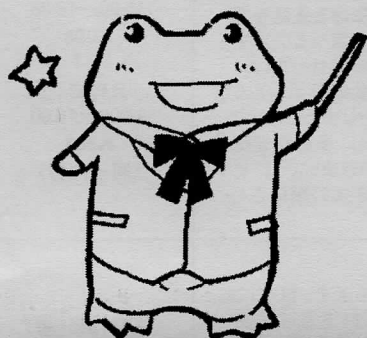


広島大学公開講座2011

「恋愛と性の講座」

お互いのこと、
もつと知ってみませんか？



「性についての情報、知識が足りなくて、ちょっと困ったりした」ことはありませんか？

「これって恋愛なんだろうか？恋愛って、いったい何だろう？」という思いが、ふと心をよぎったりしたことはありませんか？また、男らしく生きること、女らしくあることや自分らしさについて、考えてみたいなと思ったことはないでしょうか。

各回完結となっていますので、部分参加も可能です。2回開催の回は、同一内容ですので、都合の良い曜日にお越しください。4回以上参加された方には、広島大学修了証書を授与します。学生と市民の皆さんの参加をお待ちしています。

会 期 : 2011年10月27日(木)~12月10日(土) 全6回講座

時 間 : 木・金 16:20~18:20, 土 14:00~16:00

会 場 : 広島大学総合科学部講義棟 (東広島キャンパス)

参加費 : 無料

*一回のみの参加も歓迎します。

*連日実施(同一講師によるもの)は、同一内容です。

*講演内容等詳細は、裏面をご覧ください。

後 援 : 広島県教育委員会・広島市教育委員会・東広島市教育委員会

主 催 : 広島大学ハラスメント相談室, 男女共同参画推進室, 保健管理センター
〒739-8512 東広島市鏡山1丁目2番2号

TEL : 082-424-5689, E-mail : harass@office.hiroshima-u.ac.jp

たくさんの参加, お待ちしています!

講師	内容	日時・場所
第1回 河野美代子 河野産婦人科 クリニック院長	今こそ、君たちに伝えたいこと 当院での大学生の実例をもとに避妊や性感染症など、大学生の君たちへ今こそ伝えたいこと、知っておいてほしい知識のお話をします。	10月27日(木) 16:20~18:20 K208
第2回 関口 久志 京都教育大学 准教授	もっともっと幸せになるため ～サヨナラ 涙と後悔の性愛～ みなさんに性においてもっともっと幸せになってほしい。これが私の願いです。その願いを実現するために性の学習をしてきたのですが、その学習目的は、みんなに心地よい関係をもたらし、自立した共生関係をもたらすことです。私はそれを換言して「人間としての尊厳にふさわしい生命と生活を尊重される基盤をつくり、そのうえで個々人の多様な性的幸福追求権を保障すること」と言っています。ですから本来、性の学習は性のトラブル防止や克服だけでなく、その先の自分なりの幸せ(ウェルビーイング)をもたらすものでなければならないのです。今回共に学ぶことで、学習機会の不足からくる偏見や誤解、予期せぬ妊娠、性感染症、暴力などを予防したり、立ち直りを援助したりすることでマイナス面を克服し、さらに豊かな性的幸福の実現に向けて、性を科学的にみて肯定し、多様性を認め合って、プラス面を最大化して、あなたとみなさんの性を明るく素敵なものにしていきましょう。「性の幸せガイド」などの著作の作者であり、性教育の課題や実践に詳しい京都教育大の関口さんに、お話をいただきます。	11月11日(金) 16:20~18:20 K208 11月12日(土) 14:00~16:00 K208 (同一内容)
第3回 中塚 幹也 岡山大学 教授	性同一性障害と社会 性同一性障害では、心の性と身体の性とが異なるため、自身の性別に違和感を持ちます。日本において性同一性障害の公式な医療が再開されて15年になります。また、2010年、文部科学省は全国の教育委員会に性別違和感のある子どもに対する適切な対応を求める通知を行なったため、全国的に教育関係者の中で性同一性障害の子どもへの対応が始まりました。このような現状で、「性同一性障害」という言葉自体の認知度は高くなっていますが、その説明を求められると困ってしまう方も多いのではないとも思われます。性同一性障害に関する基礎知識を持って頂くとともに、その当事者たちを取り巻く社会の現状やその抱える課題について提示し、考えるきっかけとしたいです。	11月18日(金) 16:20~18:20 K208
第4回 阪井 俊文 九州女子大学 非常勤講師	メディアに見る現代の恋愛物語ー「理想の恋愛像」の問題点 映画にテレビドラマ、マンガ、文学作品...、いわゆる「メディア」にとって、恋愛は昔も今も主要なテーマとなっています。メディアは、その時代の恋愛の有様を映し出すものであると同時に、人々に恋愛とは何かという価値観や情報を広める存在でもあります。メディアのあり方は時代とともに変化し、現代の若者の恋愛観と深くかかわっているメディアとしては、ファッション誌、ケータイ小説、インターネット等が挙げられます。では、それらのメディアによって描かれる恋愛やセクシュアリティの特徴とはどのようなもので、それを若者は、どのように読み解いているのでしょうか。そして、この講座の主題でもある恋愛や性にまつわるトラブルとはどのように結びついているのでしょうか。「現代」という時代背景を踏まえて考えてみたいと思います。	11月25日(金) 16:20~18:20 K208 11月26日(土) 14:00~16:00 K208 (同一内容)
第5回 堀江 有里 立命館大学 非常勤講師	性の多様性？ー異性愛イデオロギーの罫を考える 近年、メディアにはオネエ・キャラクターが多く登場し、セクシュアル・マイノリティの存在も知られるようになってきています。この部分を切り取ると、身体的な性別と性自認が一致していることや、「女」と「男」が「つがう」ことが、かならずしも「当たり前」ではないことのように思えます。しかし、その「性の多様性」は、わたしたちの日常生活のなかに根付いていると言えるのでしょうか。また、「100人いれば100通りの性がある」というスローガンは心地よく響くかもしれないけれど、すべての人々の尊厳を「平等に」大切にすることなど、本当にできることなのでしょうか。多様性を強調することで、ある人々の性／生が排除され、負のレッテルが貼られる状況が社会構造のなかに埋め込まれていることを、わたしたちは見過ごしてしまっているのではないのでしょうか。そんな問いを抱えながら、レズビアンというポジションからみえる「異性愛イデオロギー」について考えてみたいと思います。	12月2日(金) 16:20~18:20 K208 12月3日(土) 14:00~16:00 J206 (同一内容)
第6回 有元 伸子 広島大学 文学研究科 教授	文学からみる現代社会と性ー桐野夏生『グロテスク』を読む 1997年3月、当時39歳だった東京電力の女性社員が東京都渋谷区円山町で殺害されました。屋は大企業のエリート総合職社員、夜は街娯、という二面性がマスコミの格好の餌食となり、被害者のプライバシーは興味本位に暴かれました。その一方で、多くの女性たちが「東電OLは私だ」と声を上げて悼みました。10年以上経過した今なお、この事件は、さまざまな場面で、さまざまな人々によって言及され続けています。いわゆる「東電OL殺人事件」を素材とする桐野夏生の小説『グロテスク』(文藝春秋、2003年文春文庫)をテキストとして、現代社会と性について一緒に考えていきましょう。講座は、参加者の皆さんが作品の感想や疑問点を出し合いディスカッションする、読書会形式で進めていきます。作品を読んでいなくてもわかりやすく進行していきますが、読んでから参加すれば、より楽しめます。途中まででもかまいません、この機会にぜひ作品に触れてみてください。	12月10日(土) 14:00~16:00 K208

◇会場へのアクセス 広島大学総合科学部講義棟◇

- 会場の総合科学部は、広島大学東広島キャンパスの南西側にあります。
- 西条駅からバスでお越しの場合、「広大西口」が最寄りのバス停になります。
- 学外から車でお越しの場合、大学の外周道路(路線バスの経路)を通り、大学の南側の第3ゲートから入場し、この駐車場を利用してください。

